

常新新聞

刊夕月八十二月四

發行所 常盤新報社
 電話 六三〇〇
 本社 下町橋地 (電話 六三〇〇)
 印刷所 常盤新報社
 電話 六三〇〇

梅毒

皮膚病
淋病
婦人病

專門

腸胃

内科
十二指腸
腸虫病

專門

平南町 松村病院 電話 七〇一

ブト

本品は多量の藥用生
ブト酒を水飴に混
合して製造せし最も
理想的の滋養にして變
質の憂ひなく贈答品
に適す

大特價

通學用 ゴムマント

男子用.....1.50 ヲリ
女子用.....1.60 ヲリ

な か や 洋 服 店

支那に於ける不平等 條約廢止運動の概要

陸軍歩兵大尉 萩原 英

(六)

七、通行税は第一條の規
定實施前に在りては百分
ノ三五を超過するを得ず
八、本協約に參加せざる
國も亦本協約に準據する
九、本協定に參加せざる
各國は其對支條約にして
本協定に抵觸するものは
本協定によるべし
右の決議は支那の要求する
百分ノ一二、五に比し著し
き懸隔ありて自主と云ふ程
度に到らず後日の問題とし
て殘されたのであるが是れ
今日迄未解決にある關稅會
議である

木村外科醫院

診療開始

花柳病專門

平南町三丁目共同組合

入院自炊の便あり
平南町五丁目橋際

大谷時計病院

診察無料

院長 博士 敬白

如何なる重患でも直ち癒る三丁目の大
谷へ御出下さい

耳鼻咽喉科專門

大和田醫院

平南町 (電話一七〇番)

風味で評判の
五味最中
御祝物佛事御進物や御土産に好適品と存
じます一度は御試し下さい
御用向ノ際ハ電話御カケ下サイ直接御届ケ致シマス
平南町五丁目 (電話六六八番)
泉屋菓子店

支那に於ける不平等 條約廢止運動の概要

陸軍歩兵大尉 萩原 英

(六)

關稅自主會議に就ては後章
に述ぶる事とする。
二、治外法權
支那代表は極東委員會に於
て領事、裁判權撤廢要求を
提出し委員會に於ける討論
後支那に於ける領事裁判權
に關する決議案は十二月十
日の總會を通過した其決議
要旨次の通りである。
各國は各一名の委員を派し
委員會を組織し支那に於け
る領事裁判實施の現況及支
那の法律司法制度及司法行



常磐第一ノ磐城炭礦ノ石炭
大炭礦ナル磐城炭礦ノ石炭
ツ 石炭 トノ 特長

一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速

ドーシテアンナ良イ品ランソナニ安ク賣レルカト驚カ
レ一度使ヘバ永久ニ使ヘ下サルノガ當店石炭ト「コー
クス」特長
石炭は正十貫目 一俵金六十五錢也

平南町 阿部石炭商店 (電話二三七番)

久全屋商店

磐城セメント會社特約店

常磐第一ノ磐城炭礦ノ石炭
大炭礦ナル磐城炭礦ノ石炭
ツ 石炭 トノ 特長

一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速

ドーシテアンナ良イ品ランソナニ安ク賣レルカト驚カ
レ一度使ヘバ永久ニ使ヘ下サルノガ當店石炭ト「コー
クス」特長
石炭は正十貫目 一俵金六十五錢也

平南町 阿部石炭商店 (電話二三七番)

神經痛 リウマチス

自宅療法發見

内用ロイマチ錠 定價 金五十錢
買樂壹圓以上買上ノ方に有聲座・平館無料
入場券早上

三割引仕候
平南町 宇佐美藥局
藥劑士 宇佐美友二郎



チフス流行の 原因は何か

一日も忽せにならぬ 下水道の完備

チフスの流行……不景気に
悩んで居た平町に對しては
眞に泣き面に蜂の觀がある
而して火の手をやめぬチフ
スの猛威は、平町の人心を
極度に縮み上がらせて仕舞
つた、良い飲料水を持たな
かつた平町は、水道の實現
と共に、斯の如き悪疫に全
く影を閉すであらう事を期
待して居た、然るに水道の
供給が全町に普及した今日
天然痘の發生に續いて未だ
曾つて見ざるチフスの猖獗
に祟られねばならぬ平町と
なつたのである、一体今回
の此のチフス蔓延は何に原
因するか？、是れが大きな
問題である、某識者の語る
所に依れば「チフス蔓延の
原因は水道の普及に依る」
と云つて居る、實に意想外
な驚くべき一言ではないか
左はその談片である

其の便益を蒙る事になり
どうしても水を亂用する
の弊に陥るのである、此
結果土地は濕潤の度を増
す事になる、而してチフ
ス菌は最も濕地をこのむ
ものであり従つて増殖の
力が激甚となる關係上益

無暴な出炭が 不況を一層深刻に

無暴な出炭が 不況を一層深刻に

昨年探掘量二百廿萬噸
各社の詳細の統計

常磐炭界が當面の難況さ
ぬけ策として最近今年より
向ふ六ヶ月間に亘り各社二
割の出炭制限を實行する事
に決定した旨既報の如くこ
れによつて従來山積の貯炭
なども漸次減少するものと
觀られてゐるが地方におけ
る

最大重要の産業と

してその景況が直に花旦、
海水浴の上まで影響する
石城郡内各炭礦の業操状態
なるものは一体どんなもの
であるかについてこれを昨
年度の課税実績に徴するに
試掘百五件八百四十萬七
千坪の礦區税二萬七千四百
八圓採掘百三件四千四百廿
七萬七千坪の礦區税二萬
七千四百七圓にして更にこ
れが細別を見るに

前年以上の出炭を

なしたる事も不況を一層深
刻ならしめた一原因として
首肯さるゝものがあるが而
して假りに各社協定の如く
二割の出炭制限が當分繼續
されるとせば石城全部の出
炭高は百八十四萬噸内外
といふ事になるが

過般決定したる二

割の出炭制限は磐城入山三
井古河福島等の所謂五大炭

々この病菌は各方面に傳
波されて今日の如き猖獗
を見るに至るのである、
故に下水道の完成と相俟
つて一日も忽せにする事
の出来ないのは下水道の
完備である

全部を通じ或は二

百萬噸を下らぬかも知れぬ
と觀察さるゝ節がある尙同
郡には前記石炭の外昨年中
における銅の生産額八萬千
四百八十一斤この課税價格
三萬三千八百八十五圓税額三
百十三圓あり即ち既記礦區
税に石炭及銅の礦産税を加
へたる不稅務署管内昨年度
の

公園を振り出しに

公園を振り出しに 平町を練り歩るも

各炭礦で示威行列 平署は高をくく

いよ／＼一兩日の後に追つ
たメーデーに際し昨春各炭
礦の争議に相當受難苦の体
験を得て來た石城地方では
勞資及これが取締警戒が衝
に當る側と三つ巴となつて
最初は何れも

當日を 頭痛に病ん

でゐたが昨年は其筋の取締
方法極めて峻厳にしてこれ
に遵由しての示威行列等は
到底その類に堪へなかつた
様の事情でこれを見合せた
に拘らず出勤の時間或はス
ローガン等は不明であるが

本年は 常磐礦山勞

働組合なる團體が當日松ヶ
岡公園に勢揃ひをなす本町
を練つて驛前へ出て田町橋
掘小路古鍛冶町を経て好間
村に至り古河炭礦を示威し
て山越えに内郷村へ出て常
磐炭界の中央舞臺なる磐城
炭礦を経て國道へ出で湯本
より小野田に至り同地の公
園で

解散し それより適
當なる會場を選んで記念講
演をなす豫定の如くである
といふが時節柄参加人員は
恐らく極めて少いものであ
らうと平署の高係係では
らうと問題にしてゐるない模
様である

チフスの話

消毒の方法

チフス菌は餘り強靱なも
のではありません、日陰
におけば暫く生きて居るが
乾き切つてしまへば死ぬし
日光に照らしても數時間で
死ぬ、湯をかけても容易に
死ぬ、火の中を焦せば譯も
なく死んでしまふ、攝氏六
十度の温湯の中ですら三十
分も立てば死ぬ。百度の熱
湯蒸気なら瞬間に死ぬ。又
消毒薬を用ゐれば容易に殺
すことが出来る。消毒薬は
どれでもよく作用するが三
十倍石炭酸水三十倍クレゾ
ール水五倍石灰乳二十倍ク

ロール石灰水など夫々用ゐ
られる。此等の消毒液の中
へ浸せばチフス菌は短時間
で死滅する。消毒の仕方は
不用の物品は成るべく焼き
捨てるがよい。下着とか敷
布とかの類は鍋の中へ入れ
て煮立てるがよい、夜具蒲
團の類は湯に浸すことか出
來難いから蒸気消毒を行ふ
蒸気消毒に不向きな品物は
フォルマリン瓦斯中に密閉
して消毒することも出来る
手足は石炭酸水かクレゾー
ール水等で洗つて消毒する。
便所へは生石灰かクロール
石灰を投入し或は糞尿を煮
沸してもよい。室内はグレ
ゾール水等で拭へば充分で

ある。井戸水の消毒にはク
ロール石灰を投入するのが
普通である。消毒は自分で
も出来るがチフスの場合に
は衛生の係りの者が來てや
つても呉れる消毒、同時に
大清潔法を行ふがよい、溝
渠、芥溜、流し元等を清潔
にし蠅を驅除し井戸を修理
し土地の排水乾燥等も必要
な事項である

病者保有者

現今の醫學では人體内のチ
フス菌を殺すことは出来な
いが體力がチフス菌に打ち
勝つて病氣が治る場合には
チフス菌は段々弱つて患者
の體から消失す。患者の熱
がすつかりとれて二三週間

も立つ間にチフス菌は大便
からも小便からも出なくな
るのが普通であるが時には
尙腸囊に存留つていつまで
も生きて居ることがあり従
つて數月數年稀には生涯チ
フス菌を出す者もあること
いふ保菌者はいつまでも患
者同様に危険なのであつて
警戒を解くことは出来ない
此の保菌者は藥で治らな
いので厄介である。保
菌者は勿論料理等をしては
ならないしその使用する便
所もよく消毒する必要があ
る。

チフス患者おつた時
體温が下つて全く平温に復
し普通の食事をとつても故
障がなく體力も回復して來
れば遂に全治となるのであ
るがチフス菌が消滅したか
どうかを決定するためには
小便の培養検査を行つてチ
フス菌の有無を確かめる。二
日おきに二度調べて二度と
もチフス菌が居なければ菌
がなくなつたものと認め全
治したものとす。

患者の心掛け
發病してから全治まで治療
の方面は無意無心で醫師に
まかせるのが一番よい、さ
て病氣になつて見るとよく
分るがチフスは誠に恐ろし
い病氣である。こんな病氣
はなるべく誰をも罹らせた
くないと思はねばならぬ。